

# 【テーマ】 「私立大学への補助金について学ぶ」 【主催】事務システム分科会

## 活動報告

日時：2024年10月4日（金）14:00 -16:00  
場所：立正大学 品川キャンパス + オンライン配信（Webex）（ハイブリッド開催）  
出席者：218名

### 1. 研究内容

今回の分科会は立正大学で開催しました。文部科学省の菅谷様（高等教育局 私学部 私学助成課 課長補佐）をお招きし令和7年度の同省の概算要求に関してご講演をいただきました

文部科学省の政策の紹介を交えながら今回の概算要求のポイントや中央教育審議会における検討状況等、私立大学を取り巻く情勢等についてもお話をいただき多くの気づきを得ることができ大変、貴重な場となりました。（内容詳細については「3項 概要レポート」をご参照下さい。）

### 2. スケジュール

14:00 分科会開始

○開会挨拶

○ご講演

「令和7年度概算要求を中心とした私立大学を取り巻く情勢等について」  
文部科学省 高等教育局 私学部 私学助成課  
課長補佐 菅谷 匠 様

○休憩

○意見交換

○閉会挨拶

16:00 分科会終了

## 「私立大学への補助金について学ぶ」

10月4日（金）、事務システム分科会が、立正大学品川キャンパスとオンラインのハイブリッド形式で開催されました。

今回のテーマは私立大学の補助金で、文部科学省のご担当者にご講演いただきました。文部科学省は、8月29日に令和7年度の同省の概算要求に関する発表資料の一覧を公表しています。今回は文部科学省の政策の紹介を交えながら、今回の概算要求のポイントや中央教育審議会における検討状況等、私立大学を取り巻く情勢等についてお話をいただきました。会場には50名以上がお越しいただき、オンライン参加を含めると全部で250名以上のお申し込みをいただきました。質疑応答も多く盛況な会となりました。

千葉工業大学の山崎氏（事務システム分科会運営委員）の司会で進行し、同氏が開会の挨拶を述べた後、文部科学省の菅谷匠氏が講演をされました。

### ■ご講演：

#### 「令和7年度概算要求を中心とした私立大学を取り巻く情勢等について」 文部科学省 高等教育局 私学部 私学助成課 課長補佐 菅谷 匠 氏より

### ○人口減少社会に、大学に求められる役割を果たすための補助金

私は主に、私立大学等経常費補助金の担当をしております。これまで初等中等教育局等の経歴もあり、小中高を含めた全体の教育を見通して高等教育について検討していきたいと考えています。最初に、ご存知の部分もあるかもしれませんが、人口減少社会の到来と経済・産業・雇用の変化についておさらいをしたいと思います。

令和5年の合計特殊出生率は1.20と過去最低を更新し、出生数も過去最低です。2040年にはさらに少子高齢化が進み、我が国の総人口の3分の1以上が65歳以上になるという推計も出ています。一方で地域としてみると、例えば東京圏の転入超過数の大半を10代後半、20代が占めており、大学等への進学や就職がきっかけとなって、東京圏へ若い世代が転入していると考えられます。また、OECD加盟国の生産年齢人口の将来予測を見てみると、日本の生産年齢人口は2030年には57.3%にまで減少し、最下位になる予想です。それだけでなく日本の時間当たりの労働生産性の順位は、一貫して下位となっており、近年、さらに順位が低下しています。つまり、日本は生産性、総数とも低く深刻な状態です。

ここで、経済産業省がまとめた「未来人材ビジョン」から一部をご紹介します。

### 仕事に必要な能力等の需要変化予測

意識・行動面を含めた仕事に必要な能力等について、現在は「注意深さ・ミスがないこと」「責任感・まじめさ」が重視されるが、将来は「問題発見力」「的確な予測」「革新性」が一層求められるとの予測がある。

#### 56の能力等に対する需要

2015年		2050年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14	問題発見力	1.52
責任感・まじめさ	1.13	的確な予測	1.25
信頼感・誠実さ	1.12	革新性※	1.19
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11	的確な決定	1.12
スピード	1.10	情報収集	1.11
柔軟性	1.10	客観視	1.11
社会常識・マナー	1.10	コンピュータスキル	1.09
粘り強さ	1.09	言語スキル：口頭	1.08
基礎スキル※	1.09	科学・技術	1.07
意欲積極性	1.09	柔軟性	1.07
⋮	⋮	⋮	⋮

※基礎スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

（注）各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.11になるように調整している。

（出典）経済産業省「未来人材ビジョン」（令和4年）より

13

図のように、仕事に必要な能力の需要は変化する見込みで、文系・理系の枠を超えた知識・教養が期待されています。企業は対人関係や自己管理能力及び協調性等の資質的なコンピテンスを重視するという報告もあります。

改めて18歳人口と高等教育進学率を見てみましょう。高等教育機関への進学率は概ね上昇を続け、令和5年には大学のみで57.7%、短大や専門学校を含めると全体で84.0%となっています。そのため18歳人口が減少しているものの大学入学者数はそれほど減っていません。大学数は平成14年頃をピークにやや減少傾向ですがここ10年ほどはほぼ横ばいです。

男女別で見ると女性の進学率が顕著に伸びています。一方で地域差はかなりあり、地域によってはまだ高等教育進学率の伸びが期待できると言えます。また、学部入学者に占める留学生・社会人の割合は2.3%で、こども伸びが期待できます。

では中央教育審議会における議論の状況をお話します。平成30年11月に発表された、中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」でも「18歳人口の減少を踏まえた高等教育機関の規模や地域配置」は重要なテーマとして位置づけられていました。第12期中央教育審議会大学分科会 高等教育の在り方に関する特別部会はこれまでに9回開かれ、8月に中間まとめが発表されました。

## 参考：

[急速な少子化が進行する中の将来社会を見据えた高等教育の在り方について（中間まとめ）（本文、参考資料）](#)

[急速な少子化が進行する中の将来社会を見据えた高等教育の在り方について（中間まとめ）（概要）](#)

8月の時点で今後の高等教育の目指すべき姿として、まず我が国の「知の総和」の維持・向上を掲げています。未来を担う若者が新しい価値を創造し、課題の解決に貢献するとともに、地域社会の持続的な発展を担っていくためにも、「知の総和」（数×能力）を維持・向上することが必須です。そして教育研究の「質」のさらなる高度化、高等教育全体の「規模」の適正化、高等教育への「アクセス」確保が重要です。国立大学、公立大学、私立大学の役割も再検討し、国立大学は少ない経済的負担で学べる場というだけでなく、重要な研究の拠点として大学院基盤を強化することも検討します。

令和7年度私学関係概算要求についてご説明します。経常費補助は3,000億規模で予算計上しており、令和6～10年度を「集中改革期間」と位置づけ、将来を見据えたチャレンジや経営判断をはじめとした意欲的な経営改革を行えるよう強力に後押ししていく方針です。一般補助2,854億円、特別補助237億円といずれも昨年度より増額して予算折衝中です。私学助成の中でも特に重要視しているのが、「時代と社会の変化を乗り越えるレジリエントな私立大学等への転換支援パッケージ」で、「少子化時代をキラと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援」、「複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援」のメニューがあります。それぞれ今年度45件、来年度新規で20件、今年度5グループ、来年度新規で15グループの選定を想定しています。前者は45件の枠に対して110件以上の応募をいただきました。後者は、人的リソースや各種システムの共用化、大学等連携推進法人制度等を活用して、経営の効率化を支援するものです。今後は単位互換も可能になります。

また私学経営DXを通じた「アウトリーチ型支援」も行う予定です（令和7年度要求・要望額2億円）。セキュリティを確保したうえで各大学のデータを収集・分析してお返し、各大学の主体的な経営判断に役立てていただく取り組みです。私立学校施設・設備の整備の推進に関しては総理からの経済対策に向けた指示を踏まえ、補正予算についても検討中で、年度内に使いきれなくても翌年度に繰り越せるケースも多いため、ご検討の上、予算が確定したらすぐに申請できるようご準備いただけると良いと思います。

## ■ 質疑応答・意見交換：

休憩をはさんで、質疑応答が行われました。「私立大学等改革総合支援事業タイプ1は、トップダウンでの改革が困難な大規模大学が特に高大接続の指標などで苦戦しており、結果的に規模の小さい大学の採択が多いようですが、そのように意図しているのですか」という質問に対して、「そのような意図はありません。結果として確かにそのような傾向はありますが、我々も有識者会議を立ち上げて検討を重ねており、全体として規模に応じて有利・不利とならないようにしています。また設問項目は毎年変わるので確認いただいて、今まで申請をしていないタイプについてもご検討ください。現在のご自身の大学の立ち位置を確認する機会にもなると思います」と回答がありました。

また、「時代と社会の変化を乗り越えるレジリエントな私立大学等への転換支援パッケージ」の「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」の中にあるメニュー2「複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援」について質問がありました。「新設された事業ですが、単一の大学では難しい取り組みを複数の大学で行う支援すること、大学の統合に向けた支援ということでしょうか」との質問には、「経営改革を念頭に置いており、事務システム等の共有だけでなく、教育課程の連携、人的リソースの共有を促進するメニューです。必ずしも大学・法人の統合を見据えているものばかりではありません」と回答がありました。

18歳人口の減少に関連して、「社会人の受け入れとは、学部生、修士課程、聴講生等、どのような学生を想定していますか」という質問があり、「様々な学生を想定していますが、進学率が高くなっているため、修士、博士課程への入学が多いと思います。一方でリスキングのための科目等履修生なども重視しています」とのことでした。会場でご自身の勤務している大学で学ぶ制度があるか聞いたところ、産業能率大学の方から、「教職員でも、大学院の授業を科目単位で履修できます。業務に関係のある科目の場合、大学が費用を補助する制度もあります」とご紹介いただきました。

## ■閉会：

結びに大東文化大学の諏訪氏（事務システム分科会運営委員）が、「菅谷様、ご講演ありがとうございました。今回のテーマは私立大学の補助金で、いつもより多少難しかったかもしれませんが。私立大学の現在取り巻く環境もご説明いただいたので、学びの多い良い分科会になったと思います。今後も私立大学を取り巻く現状や制度等を把握しながら、日々の業務に取り組んでいければと思います」と閉会の挨拶を述べ、閉会となりました。

## 【 分 科 会 の 様 子 】



4

## 4. 参加校 [71校136名] ・参加企業/その他[24社82名] ・参加総数[218名]

愛知学院大学 [1]	洗足学園音楽大学 [1]	桃山学院大学 [1]
亜細亜大学 [1]	太成学院大学 [1]	立教大学 [2]
植草学園大学 [1]	大同大学 [1]	立正大学 [8]
追手門学院大学 [2]	大東文化大学 [2]	立命館大学 [2]
大阪成蹊大学 [1]	高崎健康福祉大学 [1]	龍谷大学 [2]
大阪経済大学 [1]	多摩美術大学 [1]	流通科学大学 [1]
学校法人 鶴学園 [1]	千葉工業大学 [4]	流通経済大学 [2]
学校法人 静岡精華学園 [1]	中京大学 [2]	麗澤大学 [1]
学校法人 履正社 履正社スポーツ専門学校 [1]	中部大学 [2]	
学校法人 藤田学園 [6]	帝京平成大学 [1]	アシアル株式会社 [1]
学校法人 C2C Global Education Jpan [1]	帝塚山学院大学 [2]	エイチ・シー・ネットワークス株式会社 [2]
神奈川工科大学 [2]	東海大学 [1]	エフサステクノロジーズ株式会社 [1]
神奈川大学 [3]	東京都市大学 [1]	学校法人河合塾 [1]
鎌倉女子大学 [1]	東京農科大学 [1]	学生文化創造 [1]
関西国際大学 [4]	東京理科大学 [3]	株式会社内田洋行 [1]
神田外語大学 [2]	東洋大学 [5]	株式会社キャリタス [1]
京都産業大学 [3]	東洋学園大学 [2]	株式会社進研アド [1]
京都女子大学 [1]	名古屋外国語大学 [1]	株式会社 TAMABI A&D [1]
共立女子大学 [4]	名古屋芸術大学 [1]	株式会社マインドシェア [1]
近畿大学 [2]	新潟医療福祉大学 [1]	株式会社ラーニングバリュー [1]
金城学院大学 [2]	西九州大学 [1]	株式会社リクルート [1]
久留米大学 [2]	白鷲大学 [1]	株式会社早稲田大学アカデミックソリューション [3]
甲南大学 [1]	フェリス学院大学 [2]	京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社 [1]
国際大学 [3]	福岡大学 [1]	サイオステクノロジー株式会社 [3]
産業能率大学 [5]	福岡工業大学 [2]	ダイロン株式会社 [2]
芝浦工業大学 [2]	福岡女子学院大学 [2]	チエル株式会社 [2]
秀明大学 [1]	文京学院大学 [1]	電子システム株式会社 [5]
上智大学 [3]	北海道科学大学 [1]	東京コンピュータサービス株式会社 [2]
湘南工科大学 [1]	松本大学 [1]	東通産業株式会社 [3]
信州大学 [1]	武庫川女子大学 [1]	富士電機ITソリューション株式会社 [8]
成蹊大学 [2]	メイ・ウシヤマ学園 [1]	南あわじ市 [1]
清泉女子大学 [1]	明治大学 [1]	有限会社ハーティサービス [1]
西南学院大学 [2]	名城大学 [1]	富士通Japan株式会社 [38]
摂南大学 [1]	明星大学 [1]	

## 5. 所感（事務システム分科会運営委員会）

今回のテーマは、令和6年度の概算要求に「私立学校等経営DX推進事業費補助」が新たに追加されたことがきっかけでした。補助金が交付される意味を理解し、大学経営を見据えた業務を行うことができるように、事務システム分科会として初めて「補助金」をテーマとした分科会を開催致しました。

文部科学省の菅谷氏の講演は開催テーマに相応しく、人口減少に伴う新たなステークホルダーの可能性や近隣大学との連携の重要性について学ぶことができました。さらに、令和7年度私学関係概算要求から「世の中に必要とされる私立大学像」を考え、それぞれが目指すべき大学像や大学運営・大学経営について議論することができました。

文部科学省からの補助金は、大学が発展する指標の一つと考えています。所属部署に関係なく、今後も興味を持ち続けたいと思います。最後に、今回はこれまで扱われなかったテーマにもかかわらず、会場・オンライン共に大勢の方にご参加いただきました。CS研の会員校の皆様の興味関心に合った場を提供できたことを嬉しく思います。

会場をご提供いただいた立正大学様、ご講演いただいた菅谷様、ご協力ありがとうございました。

### 【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。また、今回の分科会開催に際し事前アンケートを行っています。事前アンケート結果につきましても「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しております。

### ◆「CS研・IS研情報交換サイト」について

CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様が情報交換をする会員専用のサイトです。

（サイトのご利用をご希望の方は、利用アカウント申し込みサイトにてお申込みください。）

情報交換サイトURL：

<https://csis.ufinity.jp/shared>

※利用アカウント申し込みサイトURL：<https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/102857>

### 【連絡先】

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局

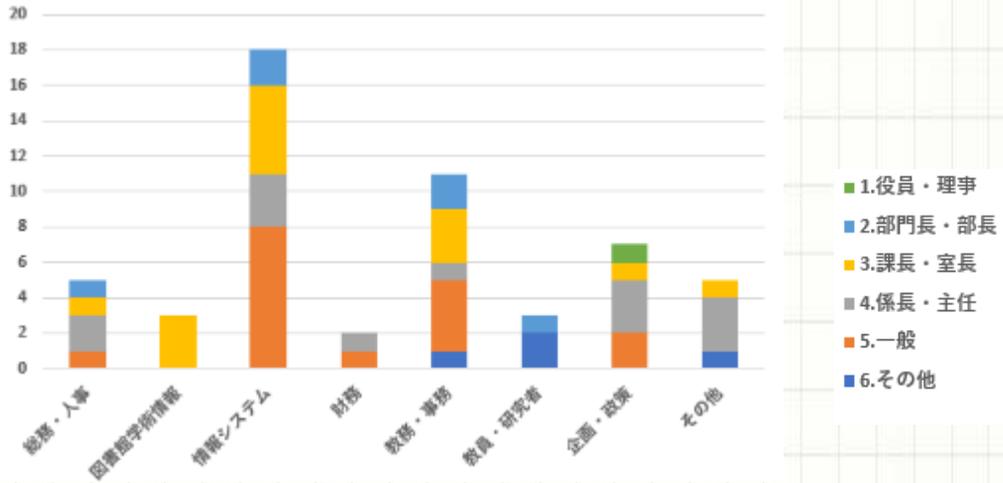
〒 212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 JR川崎タワー

富士通Japan株式会社 P&Eビジネス戦略室内

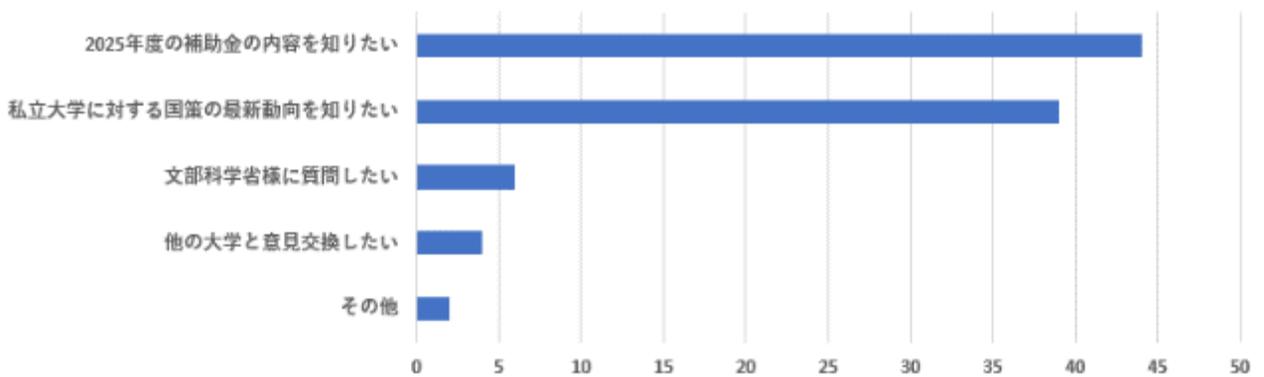
E-mail：[contact-csiken@cs.jp.fujitsu.com](mailto:contact-csiken@cs.jp.fujitsu.com)

開催後アンケート結果 【回答数／対象者数：55／136（大学関係者のみ）】

■ 担当業務と役職について



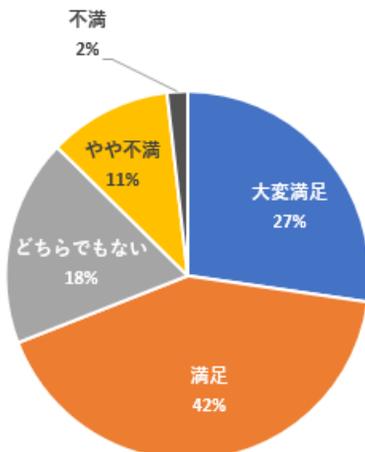
■ 参加した目的について



【その他】

- ・ 補助金全体の動向の確認とOA加速化等図書館に関するお話が聞けたらと思い参加しました。
- ・ オープンサイエンスの時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けた取り組みに対する、補助金（助成等）の直近の動向(情報等)、来年度以降の動き等について、知る・学ぶことが大きな参加目的の一つでした。

■ 本日の分科会の全体満足度について



満足以上 : 69%  
やや不満以下 : 13%

【備考】

- ・ やや不満以下はオンライン参加者のみ

#### ■全体満足度の評価理由について（一部省略・抜粋）

- 少子高齢化の現状や高等教育進学率をデータで確認出来たため。
- 予算の概要について理解が深まってよかったです。
- 現在の情勢を踏まえた内容であったため。
- 文部科学省の政策において、詳細や今後の展望についてお話を聞くことができる貴重な場だったため。
- 現在の社会動態も交えた今後の私大施策について、文科省の方からお話を伺えたから。
- 2025年度の補助金の内容がよく分かった。
- 前半の資料説明が、たいへんわかりやすく、高等教育の置かれている状況、しかも危機的な状況を把握することができたことです。
- 最新の補助金行政について理解が出来た。
- 文科省の施策とそれに紐づく補助金の内容の関連がよくわかりました。
- テーマ、内容ともに大変興味深かったです。
- 要点を整理することができた
- 文科省の方から直接補助金施策について話を聞くことができたため
- 文科省の方から直接お話を聞ける機会は非常に貴重だと思います。
- 他大学の担当者方が、様々な方向から前向きな質問をされた
- 意見交換パートが大変勉強になりました。
- 文科省 菅谷 匠氏の説明、質疑応答説明は大変良かったです。
- オンラインで発言が聴こえづらい点が多々あったこと。
- 音声が入り遅く、大切な話が聞きづらい、または全く聞こえない場面がありました。
- 社会情勢や補助金の内容など資料含め説明内容を十分に確認できなかったこと、O A 加速化やデジタルライブラリーに関するお話があまり聞けなかったため。補助金全体については後日、復習したいと思います。
- 基礎知識なく参加してしまい戸惑った時間もあったが、文科省の政策立案の後ろ盾になるデータを一緒に拝見し、それに基づいた政策を知り、有意義な時間だった。公演中は よかったが、意見交換の時間に音声が入り遅くなる時間が多々あり、残念だった。
- 短い時間の中でコンパクトにまとめて全体を説明していただけました。もう少し時間が長ければ、ピンポイント的に深掘りした詳細内容を聞くことができるかと思いました。

#### ■今後、CS研で実施してほしいイベントやテーマについて（一部省略・抜粋）

- 私学事業団による学校法人経営などに焦点を当てたものがあると、参加してみたいと思います。また、今回の補助金テーマに続いて、会計検査院による実地検査について、文科省や事業団からのお話を伺ってみたいです。
- 日々進化、進展する大学情報システムの展望 海外事例をふくめて高額化する情報システムを改革する クラウドからの脱却など
- 業務改革に資するICT活用事例等（既に開催したテーマかもしれませんが、..）
- ネットワークインフラ
- テーマ：学修歴デジタル証明、マイクロレデンシャル、デジタルバッジ
- 大学図書館の今後のゆくえ・・・「未来の図書館像」  
文部科学省 2024年7月1日公表  
〇オープンサイエンスの時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて ～2030年に向けた大学図書館のロードマップ～を受けて
- データサイエンス、経営DX
- BYODを活用した教室設計

#### ■CS研についてのご意見・ご要望について（一部省略・抜粋）

- 補助金に係る業務（教育の質に係る客観的指標、改革総合支援事業、特別補助（第2回）等）の締め切りが10月末が多いため、開催時期を11月～12月にしていただけましたら幸いに存じます。
- 意見交換というのが、実際にグループワーク形式のものかと想像しておりました。もう少し他大学の方とも情報交換をすることができれば嬉しかったです。
- オンラインの通信状況があまり良くなく質疑応答の肝心な部分が聞こえなかった。聞き直しのためにアーカイブ配信も検討していただきたいです。